



## 新型インフルエンザ再考

感染制御部

2009年の「豚インフルエンザ」AH1pdmのことも忘れがちですが、まだまだ新しい「新型インフルエンザ」に対する備えは継続しなければなりません。そこで、今回は、あの「鳥インフルエンザ」A(H5N1)の動向を紹介いたします。

高病原性鳥インフルエンザの原因であるインフルエンザA(H5N1)は、鳥の間で感染を繰り返しています。実は、日本でも年間30羽ほどの死んだ野生の鳥からこのウイルスは分離されていますし、ときには養鶏場などでの集団感染も報告されています。決して日本には関係のないウイルスではなく、むしろ日常的に遭遇するかもしれないウイルスなのです。

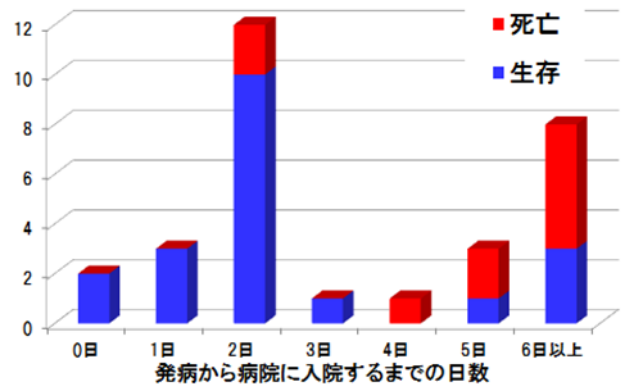
代表的な国と世界の高病原性鳥インフルエンザ感染者の数と死亡者数を表に示しました。現在までに感染患者は、世界で566人の感染が確認され、そのうち332人が死亡しています。すなわち致死率58.6%と極めて高い値です。ちなみに「豚インフルエンザ」の致死率は、0.1%以下でした。

	2003		2004		2005		2006		2007		2008		2009		2010		2011		合計	
	確定症例	死亡例	確定症例	死亡例	確定症例	死亡例	確定症例	死亡例	確定症例	死亡例	確定症例	死亡例	確定症例	死亡例	確定症例	死亡例	確定症例	死亡例	確定症例	死亡例数
カンボジア	0	0	0	0	4	4	2	2	1	1	1	0	1	0	1	1	8	8	18	16
中国	1	1	0	0	8	5	13	8	5	3	4	4	7	4	2	1	0	0	40	26
エジプト	0	0	0	0	0	0	18	10	25	9	8	4	39	4	29	13	32	12	151	52
インドネシア	0	0	0	0	20	13	55	45	42	37	24	20	21	19	9	7	8	6	178	146
タイ	0	0	17	12	5	2	3	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	25	17
トルコ	0	0	0	0	0	0	12	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	12	4
ベトナム	3	3	29	20	61	19	0	0	8	5	6	5	5	5	7	2	0	0	119	59
合計	4	4	46	32	98	43	115	79	88	59	44	33	73	32	48	24	50	26	566	332

58.6%

このうち、エジプトとインドネシアに注目してください。インドネシアの致死率82% (146/178) に対し、エジプトは32.2% (52/151) でした。これはおそらく各国の医療のレベルを示している数字だと思われます。エジプトは今年政治的に大変な年でしたが、情報のわかる今年の患者の発病から入院までの期間と予後について調べてみました。図に示すように、(発病日を0日として) 発病から3日以内に入院した人の予後は良好でした。十分な医療を受けられる地域では、早期治療が重要だと

エジプトの鳥インフルエンザ症例の予後と医療機関入院までの日数(2011年)



わかります。ところが、インドネシアでは、この傾向は明らかではありませんでした。

一方、タイはどうでしょう？タイは5歳未満の小児の死亡率などはエジプトよりも少なく、医療の水準は高いはずですが、致死率は68% (17/25) と高くなっています。しかし、表をよくみるとタイでは2007年以降発生がみられません。すなわち、危険性が社会的に啓発され、死んだ鳥や病気の鳥との接触が回避されているものと思われます。感染症は予防に勝る治療はありません。そのような意味で国や地域の医療の在り方を示唆する現象ではないでしょうか。

日本では、テレビや新聞で全国的に病気の鳥や死んだ鳥の危険性が情報伝達されます。また仮に高病原性のインフルエンザが新型インフルエンザとして流行しても、医療アクセスの良さからすぐに治療が受けられます。それでも、従来の季節性インフルエンザとは比較にならない病原性(毒力)の強いインフルエンザになると考えられますので、これからも十分な準備が必要です。

### 正しいマスクのつけ方

